

だが、今は若い女性にも人気があるようだ。東京や大阪などでは、百種類もの梅酒を並べた飲食店まで現れた▼人気の秘密は、飲みやすさと健康ブーム。おっぱいとした飲み口とともにお酒の旨味や疲労回復などの効果が期待できる。梅酒は、節には、ぴったりの季節だ。

▼県内有数の梅の産地、吉野川市美郷地区が和歌山県みなべ町とも全山県初「梅酒特区」に認定された。特区では、酒税法で定められた梅酒の最低酒造量が大幅に緩和され、少量でも製造が可能になる。地元の梅を使った梅酒のブームを生み出し、過疎化が進む地域の活性化を図る。狙いだ▼全国には岩手県遠野市のように、農家が濁り酒を製造できる「どぶろく特区」で町おこしに成功した例もある。美郷商工会では、すでに農家の人らで梅酒勉強会を始めており、来年からの製造・販売を目指すという▼大手酒類メーカーの中には、梅酒ブームに乗って、ウイスキーのたろで熟成した梅酒や和三盆糖を使った梅酒など、こだわりの商品売り出ししている所もある。和歌山県みなべ町も手づくり競争相手になりそうだ▼美郷は国内有数のホテルの生息地として知られていて、梅酒でもメディアを引っ掛ける。梅酒ブームは全国的に広がっている。